



一口噺

御隣りの李兵衛さんが眼がねをかけてしきりと新聞を讀んでゐるのを見ました田吾作さんはいさなり眼鏡やに行つて

「新聞の字の讀める眼鏡を下さう」

と云いました田吾作はもう六十近くの御爺さんですから眼鏡やではいろ／＼と老眼鏡を出して見せました田吾作さんはあれかこれかといろ／＼の眼がねを手にとりのぞいて見ると「これも駄目あれもいかん」と云つて字のよめる眼がねは外にはないかとさゝますので眼鏡やの主人が

「一体あなたは文字を御習ひになつたのですか」

と云ひますると田吾作は「フ、ン」と鼻で笑つて

「字を教つた位なら誰が字のよめる

眼鏡を買にくるもんか」